

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

5

May, 2016

vol. 402

Contents

「住・緑・家」特集…01

建築探訪…05

会員仕事紹介…07

支部だより…09

旅行記…11

委員会活動報告…13

編集者のつぶやき…14



「住・緑・家」特集

あなたもコンペに参加してみませんか？（チャンスはチャレンジから生まれる）

他の都道府県では開催していない、神奈川県独自の設計者選定コンペシステムです。
 会員であれば誰でも参加の出来る簡単なコンペシステムです。（A3用紙2面限定）
 営業をしないで公共建築物の設計が出来てしまう。こんな素晴らしい事はないですね！
 今までコンペやプレゼンをしたことが無い設計者でも大丈夫！

「住・緑・家」運営専門委員会が全面的にバックアップしますので、初めてのコンペ参加や事務所の所員が腕試しに気軽にエントリーするのもOKです。（但し会員事務所名でのエントリーとなります）



平塚市自治会館の建設委員会へ説明風景
 （ここから自治会館用コンペシステムは始まりました）

今までに自治会館は10件のコンペ実績があり、全て設計契約まで至り、内9件が竣工しました。

「住・緑・家」運営専門委員会では、関連イベントにPR参加や、神奈川県内の行政、特に自治会館等の担当窓口パンフレット等を持参しこのコンペシステムの周知を広げるなど、申込み数の増加に努めています。

当初、「住・緑・家」コンペは神奈川県産木材の利用を促進する目的で住宅用に発足したシステムでした。

平成20年に、平塚市の自治会館が公平な立場から設計者を選定する為に「住・緑・家」コンペを利用したいと相談を受け、住宅用を一部変更し自治会館用システムとして立ち上げたのが始まりです。（現在も住宅用コンペシステムは有ります）

一般社団法人が運営していることが、各行政や自治会館等から公平性と信頼性のあるシステムと評価を頂いております。

私たち「住・緑・家」運営専門委員会では、特に新入会員やお若い設計事務所の皆様に是非ご利用頂き、少しでも実務や研鑽の一助に成れば良いと考えています。

ご興味のある方は神事協事務局へお問い合わせ頂くか、又はホームページをご覧ください。

《講評委員会採点による、優秀作品》

第16号

横浜市大口通本町自治会館

講評No.1

川崎支部

(株)ボロスデザインシステム
 一級建築士事務所

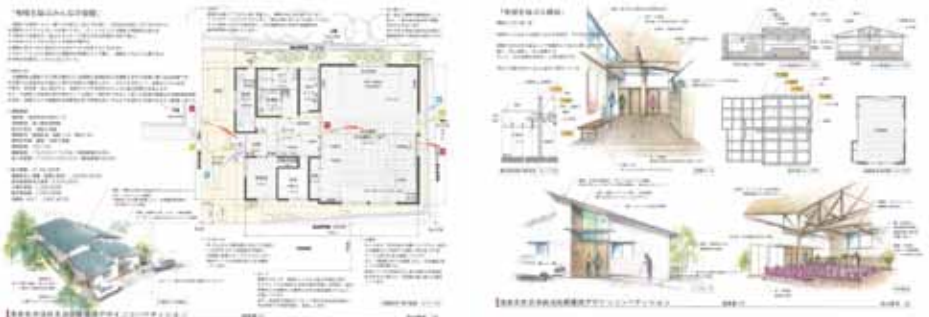


第17号

海老名市浜田自治会館

講評No.1

鎌倉支部 アトリエ空庵



設計者選定コンペのプロセス

お問い合わせ

- ・日頃のPR活動により関心を持たれたお客様より当協会事務局へEメール又は電話にてお問い合わせを頂きます。



ご説明

- ・お客様へ「住・緑・家」運営専門委員会の委員がコンペ内容全般について、ご説明いたします。



お申し込み

- ・お客様が「住・緑・家」コンペ開催を決定され、書面による申し込み後、設計者選定コンペシステムが本格的に始動します。



ヒアリング

- ・「住・緑・家」運営専門委員会がご相談に乗りながら、要望・予算・その他の諸条件を伺います。また現地にて敷地の簡易調査の他、提出書類の詳細確認も行います。



コンペ開催

- ・一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会の全会員にエントリーの募集をします。コンペごとに募集要綱を作成し、お客様の要望にかなう作品を募ります。



講評委員会

- ・有識者等5名により構成される講評委員会を開催します。
全作品を講評委員会にて公平に審査し、提案内容を点数にて評価します。



一次審査

- ・全応募作品の中からお客様のご要望に合う作品(3~5作品)を選定して頂きます。
「住・緑・家」運営専門委員会の委員が全作品の講評結果を御説明しお客様の質疑にお応えします。



二次審査

- ・一次審査により選定された作品をその設計者が30分程度でプレゼンします。
設計者による詳しい提案内容の説明と質疑応答を行い最終案を絞り込みます。



設計者選定

- ・二次審査終了後一週間程度で設計者をお客様に最終選定して頂きます。
設計者選定後、お客様と設計者との打ち合わせがはじまります。



実施設計 ～建物完成

- ・最終選定された設計者(選定設計者)と「設計監理契約」を結んで頂きます。
- ・選定設計者による詳細な設計業務が開始されます。
- ・選定設計者による施工業者選定・発注のアドバイス等を行います。
- ・工事着工後は選定設計者が工事監理を行います。
- ・お客様の地元に関心のある施行者がいない等、施工者選定に困らない様に「住・緑・家」コンペ施行者選定システムもご用意しています。



【木の表情を活かした過去の実例】

「住・緑・家」特集

横浜市中里町友会館 第13号「住・緑・家」コンペ作品

「機能的でシンプルな自治会館」とのご要望を受けて提案した本施設は、総2階建てにロフトを設け、延べ面積192㎡（+ロフト26㎡）の規模で、環境への配慮と今後の自治会館運営のため、100%売電の10Kw太陽光発電を設置してあります。

1階には51㎡の広間、隣接して15㎡の厨房を配置し、2階は屋根形状に合わせた勾配天井の2つの会議室、印刷室、20㎡の収納庫とロフトを備え、充実した機能の自治会館になっています。内部空間を可能な限り豊にする為、1階、2階とも梁を露出して天井を高くし、梁等の限られた木材で、効果的に、空間の暖かさ、自治会館に相応しい品格も得られるよう配慮しました。



川崎支部 株式会社ナカオアトリエ 中尾実
 施工：柏倉建設株式会社（横浜支部）
 場所：横浜市南区中里



3

茅ヶ崎市本宿自治会館

第14号「住・緑・家」コンペ作品

茅ヶ崎市本宿自治会による自治会館で、床面積119㎡+5㎡の地下収納の規模で、あえて外階段にすること、1Fを土足利用にすることで、1Fと2Fの容積を無駄なく活用できるよう設計されています。

1階には選挙の投票所としても活用される48㎡の多目的室を設置し、構造体の梁を表した天井、神奈川県産材のヒノキ腰壁で仕上た、温かみのある空間に仕上がっています。



川崎支部 有限会社上原建築設計事務所 上原伸一
 施工：株式会社白井建設
 場所：茅ヶ崎市赤松町



横浜市大口通本町自治会館

第16号「住・緑・家」コンペ作品

目を引く外観建物の門型ゲートはアクセントカラーとして、様々な色を自治会建設委員会と検討を重ね、旧自治会館色を受け継ぐ系統色とし、町内のシンボルとなるファサードとなっています。延床面積137.86㎡のコンパクトな建物ながら自治会館以外の機能として、神輿山車置場・消防団器具置場を設置し、1階に小ホール、2階に大ホールと料理教室が開催可能な厨房を配置。災害時には、防災拠点としての機能を果たすべく、高い耐震性能と広い空間をSE構法で確保しています。

歴史・伝統ある自治会が、今後も地域イベントや、住民の多種多様な活動を通し、住民間のさまざまな情報交換を触発する場として、又、より活発な街づくり・自治活動の期待と満足感が共有され、新たな活動の開始と参加意欲をかきたてる拠点となることを願っております。

藤沢支部 三村邦彦建築設計事務所 三村邦彦

施工：柏倉建設株式会社（横浜支部）

場所：横浜市神奈川区大口通



4

海老名市浜田自治会館

第17号「住・緑・家」コンペ作品

浜田三塚公園の景観にマッチした外観と、バリアフリーは基より、シンプルながら可変的に使える間取りにより、自治会員さんの活発な活動の拠点として、多用途にご利用いただけます。

広めにとった玄関ホールは、気軽に立ち寄るコーヒーサロンとなります。

広い会議室は、通常の会議、卓球・ヨガ・ダンスなどのスポーツ場、可動式舞台設置により90人程度収容のイベント会場として利用されます。奥の和室は、囲碁などの趣味・娯楽室でも有り、イベント時には控室にもなります。神奈川県産材使用・環境配慮型・社協など、多種の補助金制度を利用しております。

2015年10月30日 竣工

構造・規模：木造平屋建て

床面積：171.62㎡

相模原支部 株式会社RAN企画設計 新村玲子

施工：株式会社ひら木

杉崎茂夫（海老名支部）

場所：海老名市浜田町



建築探訪

江の島湘南港ヨットハウス

藤沢支部 三村邦彦建築設計事務所 三村 邦彦



撮影 鳥村 鋼一



撮影 鳥村 鋼一

神奈川県民なら誰でも一度は訪れたことのある「江の島」、参道を通して、江島神社を経由し、シーキャンドル（展望灯台）・岩屋等が定番コースですが、参道入口の青銅鳥居を右に見ながら先に進むとヨットハーバーがあります。

1964年の東京オリンピックヨット競技のため作られヨットハウスに替わり、2014年6月に新たなヨットハウスが完成しました。

以前、オープン直後の見学会に一度訪れ、自宅・事務所から近く、再度ゆっくり見学しようと思って早2年弱。改めて今回の記事取材で訪ねました。

波をイメージした白い屋根、カーテンウォールのガラスが海水のようで、気分が晴れやかになります。

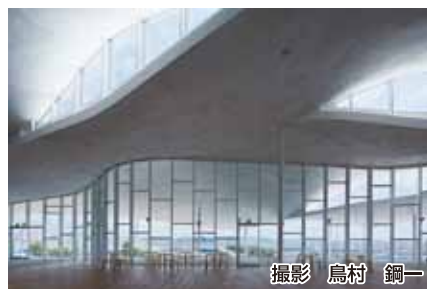
設計者の西田勝彦氏は、江の島ヨットクラブの理事まで務められたヨットマンであり、「ヨット利用者だけでなく、一般の人にも開かれた

施設とし、ここを訪れたことをきっかけにヨットを楽しむ人が増えればいい」と願い、「ヨットを分かっている人間が設計すべき」という信念の基に指名プロポザールに当選したと聞いております。私も藤沢に住んで四半世紀以上になりますが、高いフェンスに囲われ、閉鎖的だった旧ヨットハウスには一度だけ恐る恐る足を踏み入れただけでした。現在のヨットハウスは、通りの一番近いところにオープンカフェがあり、内部の様子が伺えるカーテンウォールには何箇所も開放された出入口があり気軽に立ち寄れて、「ヨットいいなあ、やりたいなあ」と思わせてくれます。

とにかく管理が優先される公共建築物でありながら、ここまで公開性のある美しい公共の建築に関わった設計監理者は勿論、発注者、施工者全ての関係者の熱意と努力が感じられます。



自由曲面屋根の型枠工事状況。まるで恐竜の骨組みのようです。



撮影 鳥村 鋼一

屋根スラブをそのまま表しているので天井も波打っています



海側からの新旧ヨットハウス。約半年間、新旧ヨットハウスが共存していました。

●ミニうちく

① 2008年、10社の指名プロポーザルへの参加は、ヘルム建築都市コンサルタント（代表：西田勝彦）でしたが、プロポーザル当選後、長男・西田司氏が代表を務めるオンデザインパートナーズと共作し、設計・監理「ヘルム+オンデザインパートナーズ」となっています。

事務所名にある「ヘルム」とはヨット用語で風によって船が向きを変えようとする舵(かじ)という意味があるそうです。

実際、父・勝彦氏が舵取りをし、プロポーザル案では直線的な屋根だったものを司氏のオンデザインパートナーズが、次世代へのメッセージとして波をイメージした自由曲面の屋根を提案したとのこと。ただ、勝彦氏はプロポーザルを勝ち取るための提案として割り切り、当選後には屋根形状を大きく変えようと思っていたようで、楨文彦氏のスタッフ時代から、大規模公共施設を数多く手掛けてきた勝彦氏ならではの戦略があったのではないのでしょうか。

② 予定通りの設計期間で設計が完了したにも関わらず、当初着工予定から約1年遅れた理由は？

実施設計完了と同時期に東日本大震災(2011年3月11日)があり、屋根上に津波避難デッキを設置する設計変更があった為だそうです。

実際には、この自由に出入りできるデッキのおかげで海をより広く眺望でき、波をイメージした柔らかな曲線美の屋根を間近に見られるので、一石三鳥のプラス効果があり、外観を損なわず全く違和感なく完成しています。

③ 建築には関係ありませんが、江の島ヨットハーバーでは、国内主要大会の約9割が開催されるヨットの聖地だそうです。

④ 建物内には1964年の東京オリンピックのメモリアルプレートが展示されています。又、外には見過ごしてしまいそうですが当時の聖火台があります。



⑤ 旧ヨットハウスは、谷口吉郎氏・山田水城氏による設計で、主導した山田氏は日本を代表するヨット選手だったそうです。

つまり新旧共、ヨットマンの設計です。

●勝手な妄想

① 2008年のプロポーザル時は、2020年東京オリンピック招致活動前で、IOC、JOC等からのオリンピック施設条件・要望を受けず、適正なスケールで建設された事は幸いだったのではないのでしょうか。

② 1964年の東京オリンピックヨット競技のため作られ、日本のヨットの歴史を刻んできた旧ヨットハウスは、新ヨットハウス完成した2014年に取り壊され、跡地がディンギー(小型ヨット)置場となっています。

ちょうど半世紀で新旧が入れ替わったことになり、半世紀後にも旧ヨットハウス跡地で3代目ヨットハウスを建てられそうです。

伊勢神宮の式年遷宮より長い周期で、半世紀毎にヨットの聖地を建て替えるロマン。



旧ヨットハウス取り壊し前



旧ヨットハウス取り壊し後の現在はディンギー置場

毎年恒例の神事協・地引網大会に参加の後、新たな江の島を訪れてみてはいかがでしょうか。

美しい建築・非日常空間が楽しめ、2階ホワイエ・屋上津波避難デッキから湘南のパノラマを眺められ、きっと日頃の疲れを癒してくれるスポットとしてお勧めします。

発注者：神奈川県

設計・監理：ヘルム+オンデザインパートナーズ

会員仕事紹介

やんべーよ

県西支部 竹広林業株式会社 加藤 一郎

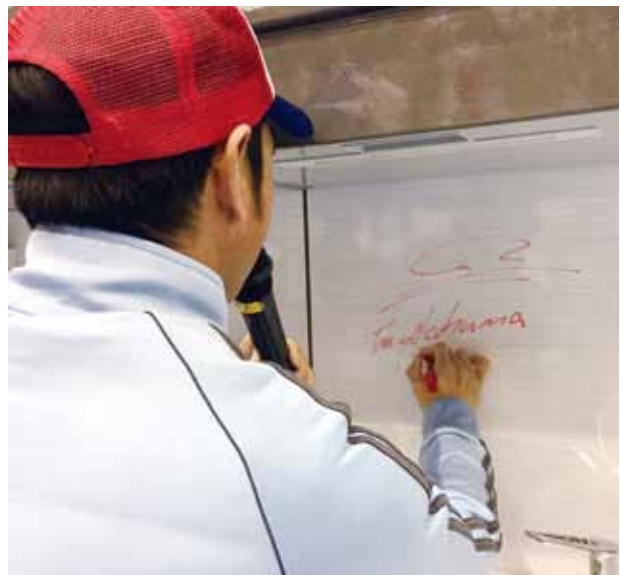
竹広林業(株)では小田原市と周辺自治体の事業者と一体となって住環境や暮らし方を提案する『やんべーよ』を年2回開催しており、今年の3月にも開かれ、2日間で延べ1700人が来場した。

元々は当社と取引先工務店によるOB施主、見込み客らを招く集いだったが、回を重ねるごとに輪が広がり、地域の材木店、エネルギー関連業者、木製品加工、食関連、フットサルチーム、コミュニティーFM、そしてもちろん事務所協会県西支部会員らからなる『チーム住くら夢』の主催へと発展。

地元が一丸となった取り組みに成長した。住関連の最新のトレンド紹介を軸に地域産品までを幅広く扱うほか、家族連れが一日楽しめる催しなども交えることで地域に恒例行事として定着してきている。

今回は工務店21社が参加。住関連として地域の材木店、工務店が一丸となって普及に取り組む「小田原産材」フローリング、桧ウッドデッキ展示をはじめ、住宅の省エネ化含めた電力自由化相談コーナー、地元金融機関による住宅ローン借り換え相談、耐震相談コーナーなどを設けた。

またご当地グルメや地元の母親によるNPO法人の催しも同時に開かれ、地元のフラダンスフープダンス、ストリートダンス、ゴスペル各サークルのステージが会場に彩を加えました。当日の成約、見積り、現調の合計は100件に到達。また、この取り組みを見習おうと静岡も含めた周辺同業者の視察も多く見られたほか今井敏林野庁長官も見学に訪れた。





『小田原の工務店・設計事務所では、人から家を考えます、つまり、お客様の暮らしに合わせて、やり取りを重ねて使いやすいように家の間取りを考えていきます。一つ一つの工務店・設計者の発信力は小さいですが、同じ心意気を持ったもの同士がチームになることでより多くの市民の方に自分たちの存在・思いをお届けし、納得できる住まいを手にしていただきたいです』

※《やんべーよ》とは
 ちなみに「やんべーよ」とは、小田原弁で「やろうよ!」の意味です。
 「花見やんべーよ」
 「飲み会やんべーよ」
 「広報委員会やんべーよ」
 など、汎用性の高い言葉です、みなさん大いにご活用ください。

支部だより

相模原支部紹介

相模原支部 副支部長 杉本 勝郎

支部総会もこの号が出る頃には無事終了し新しい年度が始まっているのが5月です。

総会と前後してしまいますが今年も春一番の行事として行っているのが、相模原市民桜祭りの参加です。これは1974年から続けられているお祭りで、市役所前の通りに植えられた約300本のソメイヨシノが壮観で、例年50万人以上が訪れると言われており盛大なお祭りです。

我相模原支部も、相模原市建築指導課と共に住宅耐震診断や住宅相談を行って来ました。

今回はここ数年行ってきたアンケート調査の集計発表を展示し一応の成果発表とし今後の新しい活動の分岐点と位置付けております。

展示では、実物住宅の起震台による破壊試験のDVD放映や、筋交いの役割、床剛性のはたらきが良く分かる木造住宅軸組模型に人気が集まりました。

ただ数年に渡り似た内容の展示等に対し問題意識も高まっており、今後の神事協相模原支部の役割と目的を再検証し発展していこうという意見が一致しており今後の大きな課題と認識しております。



支部だより

平塚支部の紹介

平塚支部 田中 敦史

平塚支部では、本年の1月から支部会員で構造専門家の梶さんを講師に迎え、木構造の基本を勉強するための構造勉強会を全5回に渡って開催しました。そもそもこの勉強会を開催するに至った経緯は、支部での懇親会や忘年会等で、基礎人通口の正しい補強方法や床倍率の考え方等について互いに意見を交わし合った際、掘り下げてみると意外と解らない事や、曖昧な事が多くあることを感じ、それならみんなで知識を深め、また基本を見直す意味でも勉強会をやってみよう、となった訳です。

実務では、最も身近な木構造でも基準法よりも細かい構造的検討を求められる、性能評価や長期優良住宅などに接する際、パソコンソフトを使用したりマニュアル本を片手に計算したりしながら、又は経験則からの判断で様々な結果を導き出しているのですが、その根拠や概念、解釈など必ずしも理解しているとはいいがたい部分が多々ある事に気づきます。その部分の理解を少しでも深め、構造計算まではできないにしても個々のスキルアップや実務に役立てる事が今回の勉強会の目的です。

初回の勉強会では、木造はピン構造である事から話が始まり、軸組での力の流れを意識する事の重要性を学びました。『パソコンソフトで壁量計算をする際、つい壁量にばかり目が行っていませんか?』『上下階での力の流れを意識した耐力壁の配置を心がけていますか?』これらのテーマが講義の中心となりました。

2回目ではベタ基礎の底盤にかかる力と変形のメカニズムに触れ、底盤の配筋の重要性を痛感しました。N値計算では、その盲点を学び慎重な金物選定が重要である事を再確認しました。

3回目は偏芯率と基礎・地盤の関係についての話題に。少しややこしい計算式が登場してきましたが、単純化したモデルで数値化すると「なるほど」と思える結果に。新築ばかり

でなく耐震補強の際にも十分に役に立つものでした。

4回目と5回目では地耐力と基礎の関係性と、基礎設計の考え方を学びました。

ベタ基礎ではピン端と固定端が部位によって混在している事や、それが基礎梁に与える回転モーメントをどうやって発生させているかを深く知る事ができました。これにより人通口を配置する際の理想的な位置を知る事にもつながり、より安全で理想的な基礎を設計する重要な知識の一部を得る事ができました。

今回の勉強会では一方通行的な所謂“講義”ではなく、途中で様々な質問や意見を発し、個々の疑問と講義内容を関連付けながら私たちの好奇心を満足させるような方法で実施しました。そのため白熱し脱線する事も多少ありましたが、ざっくりばらんな会話の中から生まれる意見や回答は、どれも一つ一つ活きたもので大変充実した時間だったように思います。

今年度はこれで一区切りと言う事となりますが、既に来年度に向けてのテーマも準備しています。まだ時期は未定ですが、詳細が決まり次第支部会員にはメール等でご案内があるかと思しますので楽しみにしてください。

講師の梶さんにはこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



平塚支部構造研修会

旅行記

吉村順三、レイモンド、ヴォーリズ再考」バス見学会

企画委員会副委員長 梅原 義信

2日前からの雨が気になりましたが、バス見学会の3月8日は天候に恵まれ、目的地の軽井沢は残雪の浅間山がくっきりとその雄大な姿を見せ、澄み切った空気の中、45人の参加者を向かい入れてくれました。

軽井沢までは約3時間、バスの中ではこれから訪れる吉村順三の「ハーモニーハウス」、「メロディーハウス」、レイモンドの「夏の家（ペイネ美術館）」、ヴォーリズの「旧朝吹山荘（睡鳩荘）」についての解説、吉村順三の人、作品についての講習、さらにヴォーリズについてのビデオ鑑賞をしました。吉村順三の講習については座間支部の伊藤氏がおこない、吉村順三の魅力について、吉村山荘の模型を持ってきての解説で、見学会への期待度が高まりました。

初めに訪れたのは吉村順三の「ハーモニーハウス」、「メロディーハウス」でした。

「ハーモニーハウス」はアメリカ人女性の音楽家「エロイーズ・カニングハム」の音楽研修施設で、音楽ホールを中心に20～40名が泊まれる宿泊棟と事務棟からなる木造2階建て、片流れ屋根の建物で、1983年、吉村順三75歳の晩年のものです。核となるホールにはコルビジェ風のスロープがあり、そこに今回の目玉である未公開の吉村順三の図面、61枚のパネル展示があり、図面を見た上で実際の空間、納まりを確認する事ができました。また、ホールにあるピアノも弾いて音響効果を試す事ができました。

「メロディーハウス」は同じ敷地にある「エロイーズ・カニングハム」女史の別荘で、木造2階建て、片流れ屋根の建物で、1985年、吉村順三77歳のものです。リビングの吹き抜け、障子を介しての柔らかな光、深い軒の出は吉村順三らしさが感じられましたが、実際は、吉村順三が全く係わって無いとの意見もありました。ここにもピアノがあり、音響効果を試す事ができました。

「ハーモニーハウス」「メロディーハウス」から車で約30分。浅間山を望む塩尻湖を中心に貴重な建物を集めたミュージアムが「軽井沢タリアセン」で、次に訪れたのは、そこにあるア

ントニン・レーモンドの「夏の家（ペイネ美術館）」とウィリアム・メレル・ヴォーリズの「旧朝吹山荘（睡鳩荘）」でした。

アントニン・レーモンドの「夏の家（ペイネ美術館）」は1933年、レーモンドが45歳の時のもので、コルビジェを始め、当時のモダニズム建築を学び、ライトの影響から脱しようとした記念的なものですが、建物内にあった移設当時の外観写真からは壁の色も異なり、美術館として使用していることから窓もふさがれ、建物の本来の良さが見られず、保存の難しさについて考えさせられました。

同じ園内にあるウィリアム・メレル・ヴォーリズの「旧朝吹山荘（睡鳩荘）」。

これは帝国生命、三越の社長をつとめた朝吹常吉の別荘で天井は高く、窓は大きく、人間にとっての健康を重視し、内部空間、家具に重きを置いたヴォーリズらしさがよく表された建物でした。

帰りの車中は参加者一人一人が順番に意見を述べ、吉村順三、レイモンド、ヴォーリズの事は勿論、コルビジェ、ライト、ミースの話も出て、近代建築の原点を再び考えることができた見学会でした。



ハーモニーハウス前にて全体写真



夏の家（ペイネ美術館）前にて



ハーモニーハウス内部



旧朝吹山荘（睡鳩荘）前にて



メロディーハウス外観



旧朝吹山荘（睡鳩荘）内部

委員会活動報告

マンション等の大規模修繕業務対応専門委員会

副委員長 鈴木 與

マンション等大規模修繕工事及びこれに準ずる事業についての技術指導及び大規模修繕工事、改修設計に関する技術関係などの調査、研究、会員の専門技術向上を図り、一般市民からの相談に対応するなどして社会貢献する事を目的とする専門委員会で、下記に挙げる3事業を行っています。

①登録メンバーへのスキルアップ講習会の企画・運営を年2回開催しています。

第1回セミナーでは、近年増えつつある高層マンションの大規模修繕に於ける、足場材の選定や、設計・監理の注意点について、実際に高層マンション業務を行ってられる方を講師に招き開催し、60名の参加者がありました。

第2回セミナーでは、マンション長寿命化改修設計「講習会 ～コンクリート躯体編～」をテーマに「建築物のひび割れ原因と対策について」を構造建築士の方を講師に招き、ひび割れの原因と対策について講習を行いました。コンクリート中性化改善「再アルカリ工法」紹介では、大阪城天守閣・平成の大改修にたずさわった現場代理人の方に当時のエピソードを交えながら興味深い説明をお聞きし・モルタル剥落対策では、「ピンネット工法」の講習を行いました。60名の参加者がありました。

②市民から電話相談:年間12件 出張相談:年間1件を行いました。

③マンション管理組合からコンサルタントの紹介依頼が2件あり、登録会員への参加希望アンケートの実施を行って紹介をしています。

委員会発足当初より、管理組合からの相談、紹介依頼等は増えてきています。委員会では、今後も魅力あるセミナーを企画してゆきますので、是非、御参加ください。



第1回セミナー



第2回セミナー

新入会員のご紹介

3月入会者

横浜支部

有限会社福田建築設計一級建築士事務所 福田 憲治
〒232-0067 横浜市南区弘明寺46
TEL.045-711-6073 FAX.045-716-3023

鎌倉支部

高橋宅建 1 級建築士事務所 高橋 則雄
〒247-0072 鎌倉市岡本2-16-34-B101
TEL.0467-67-3385 FAX.0467-43-3846

厚木支部

エルアフィード株式会社一級建築士事務所 奈良 直史
〒227-0055 横浜市青葉区つつじヶ丘6-25
TEL.045-989-3113 FAX.045-989-3114

4月入会者

横浜支部

株式会社オール・フラッツ一級建築士事務所 權平 共生
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-22-16-601
TEL.045-530-3493 FAX.045-530-3494

株式会社トータルテック 水野 眞吾
〒231-0012 横浜市中区相生6-113 オーク桜木町ビル9F

株式会社アルファ設計一級建築士事務所 境野 雅仁
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町3-1 NOF川崎東口ビル11F
TEL.044-200-7157 FAX.044-233-5285

クリステラ建築設計事務所 星 俊之
〒231-0044 横浜市中区福富町東通5-2 第一平安ビル504
TEL.090-2323-0619 FAX.03-6893-4548

エイム総合設計 志茂 貴信
〒231-0033 横浜市中区長者町3-8-13 TK関内プラザ606
TEL.045-640-6011 FAX.045-640-6014

川崎支部

十二月デザイナー一級建築士事務所 安藤 真澄
〒214-0014 川崎市多摩区登戸2559-9
TEL.044-577-9753 FAX.044-577-9753

株式会社原尚一級建築士設計事務所 原 尚
〒211-0053 川崎市中原区上小田中6-26-11
TEL.044-711-2201 FAX.044-722-0302

鎌倉支部

アトリエスプリング一級建築士事務所 石原 潔
〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷2-24-18-2
TEL.0467-40-3009 FAX.0467-40-3009

新入会員のご紹介

4月入会者

海老名支部

株式会社SAplus建築設計事務所 仙波 弦
〒243-0427 海老名市杉久保南2-1-16-1
TEL.046-215-9738 FAX.046-215-9738

退会者

横浜支部

日進建設株式会社一級建築士事務所 長田 聖司
有限会社アルタック 高橋 保博
無地craft一級建築士事務所 金子 麻子
山田建築設計事務所 山田 正美
有限会社斉藤建築設計事務所 齊藤 勇
有限会社エム設計 森 雄治
有限会社関工務所 関 俊平
有限会社市野建設一級建築士事務所 市野 晃太郎

川崎支部

一級建築士事務所アトリエ・アンド・エス 佐々木 徹

横須賀支部

株式会社栄林一級建築士事務所 林 日出海
高橋設計事務所 高橋 秀夫
TAMA設計1級建築士事務所 玉田 正人

鎌倉支部

東建築設計 東 真一郎

厚木支部

株式会社石川設計 石川 季夫

変更

横浜支部

有限会社木村建築測量設計事務所
(指定代表者変更) 木村 美智子

菱重ファシリティ&プロパティーズ株式会社横浜一級建築士事務所
(事務所名変更) 旧) 菱重エステート株式会社横浜一級建築士事務所

株式会社MM設計事務所
(所在地・TEL・FAX変更)
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-22-11 エミリオ201号室
TEL.045-873-6072 FAX.045-873-8470

川崎支部

有限会社ナカタ設計
(所在地変更) 〒210-0022 川崎市川崎区池田1-12-13

株式会社マックス
(所在地・TEL・FAX変更)
〒216-0035 川崎市宮前区馬絹1473-5
TEL.044-750-0006 FAX.044-750-0081

横の木設計
(所在地変更) 〒211-0064 川崎市中原区今井南町15-5

茅ヶ崎寒川支部

昇建企画建築設計事務所
(事務所名・所在地・TEL・FAX変更)
旧) 荒木工務店二級建築士事務所
〒253-0071 茅ヶ崎市萩園1300-1-401
TEL.0467-57-5084 FAX.0467-57-5084

海老名支部

橘川雅史建築設計事務所
(所在地・TEL・FAX変更)
〒243-0432 海老名市中央3-2-29-203
TEL.046-240-9400 FAX.046-240-9449

相模原支部

株式会社安心住宅みらいえ一級建築士事務所
(事務所名・所在地・TEL・FAX変更)
旧) 株式会社既存住宅保証センター一級建築士事務所
〒252-0318 相模原市南区上鶴間本町4-52-30
岩井ビル3F TEL.042-767-5442 FAX.042-767-5443

賛助会新入会員

平成28年度入会者

株式会社日東製陶所

三興商事株式会社

株式会社シーケン

株式会社ジオテクノ・ジャパン

フルテック株式会社横浜支店

会 勢

平成28年4月15日現在

支部名	平成28年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	262	262	5	5	0
川 崎	105	106	2	1	1
横 須 賀	52	51	0	1	-1
湘 南 三 浦	16	16	0	0	0
藤 沢	28	28	0	0	0
鎌 倉	39	39	1	1	0
茅ヶ崎寒川	18	18	0	0	0
平 塚	21	21	0	0	0
秦 野	18	18	0	0	0
伊 勢 原	9	9	0	0	0
大 和 綾 瀬	19	19	0	0	0
厚 木	34	33	0	1	-1
座 間	13	13	0	0	0
海 老 名	15	16	1	0	1
愛 川	7	7	0	0	0
相 模 原	75	75	0	0	0
県 西	41	41	0	0	0
合 計	772	772	9	9	0
賛 助 会 員	77	81	5	1	4

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。
※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき



広報委員会の委員となり
ちょうど一年が過ぎました。
以前はなんとなく読んでいた
会報KANAGAWAも自分が
委員会に参加し、委員の皆さん
と記事の校正や内容の打ち
合わせをし、個々に記事を担



当することを知り、またそのことを楽
しんでいることがよくわかり、圧倒さ
れて参加するだけで何もできない一
年でしたが、大変勉強になりました。
今年はもう少し皆さんに付いてい
けるように頑張ります。

先日、家族で藤沢市秋葉台文化体
育館にて大相撲藤沢場所に行きまし
た。相撲観戦は初めてでしたが、間近で観る力士や取組は迫
力がありました。また、横綱白鵬の土俵入りや、琴奨菊の琴
バウアー、琴勇輝の「ホウ」を生で観れて、楽しい時間を過
ごしました。

【大和綾瀬支部 小井口 英寿】

かながわ 平成28年5月号 (通号402号)

発行 平成28年4月1日 (奇数月1日発行)
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

担 当 副 会 長 小渡 佳代子
・ 広報情報委員長 白川 正孝
・ 広報情報副委員長 三村 邦彦 小泉 厚
・ 広報情報委員 雨森 隆子 恩田 耕爾 清田 鈴美子
・ 新倉 良一 小井口 英寿 坪井 教一
・ 杉本 勝郎 神尾 明美
・ 事務局 小林 恵美



今月の表紙

大岡川寸景

今春の気温の変化は、株価のように乱高下が激しく天候も不安定でしたが、桜はそんなこと関係ないとばかりに満開でした。

大岡川にも散った花びらが水面にただよい、また風情ある景色です。



一般
社団法人

神奈川県建築士事務所協会

Kanagawa Architect Office Association